

大気イオンと地震との関係

大気イオンと地震に関する研究は、大阪市立大学名誉教授弘原海清氏が1995年の阪神淡路大震災が起こる前兆現象として異常な大気イオンを観測した事に気付いた事から始まる。NPO法人 e-PISCO を設立して10箇所の観測施設を整え本格的な地震予測の研究を開始する。2007年6月には神奈川県工科大学准教授矢田直之氏の研究室に於いてCOM-3700大気イオン測定器を設置して新たな研究が始まり、同年7月の新潟上中越沖・中越地方地震、同じく10月の神奈川県西部地震に由来するものと思われる異常な大気イオンを観測する。

地震前に大気イオンが生成する(仮説)

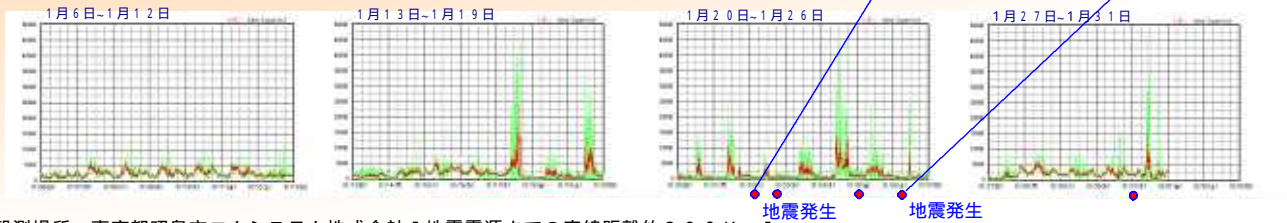
地殻にプレート運動による圧力がかかると地殻に微細な亀裂が生じ、そこから放射性ガスのラドンが大気に放出される。放出されたラドンガスが上昇拡散しながら大量にイオンを生成して行く。ラドンガスを放出しながら地殻の圧力がかかり続け、耐えられなくなったところで地震が発生する。その時生成したイオンは大気中の塵や小さな水粒子に付着して長時間消滅せずに浮遊するクラスターイオンと成り大気中を移動して行く。この事から地震の前に生成する大気イオンを測定する事により地震の予測が可能と思われる。

石川県能登地方・能登半島沖地震と大気イオン観測データ

大気イオンの異常値が1月17日から観測される(地震が起きる5日前から)

石川県能登地方地震 2008年01月22日16時20分
北緯37度19分 東経136度46分 深さ12 Km M:4.0
石川県能登地方地震 2008年01月26日04時33分
北緯37度19分 東経136度46分 深さ11 Km M:4.8

大気イオン測定データ:測定レンジR2(0-50,000個/cc)



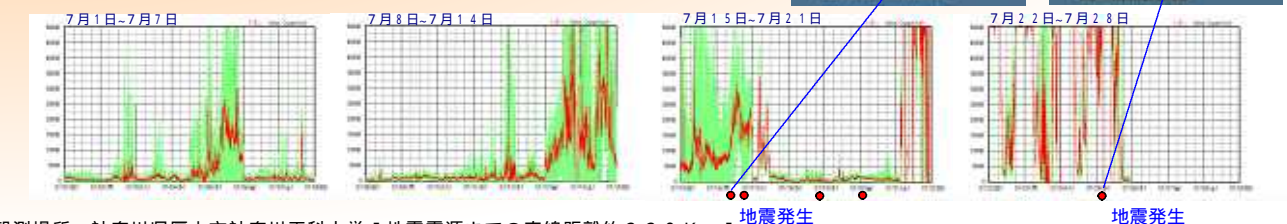
観測場所:東京都昭島市コムシステム株式会社[地震震源までの直線距離約290Km]

新潟県上中越沖・中越地方地震と大気イオン観測データ

大気イオンの異常値が7月02日から観測される(地震が起きる14日前から)

新潟県上中越沖地震 2007年07月16日10時13分22.5秒
北緯37度33.4分 東経138度36.5分 深さ17 Km M:6.8
新潟県中越地方地震 2007年07月25日06時52分4.0秒
北緯37度31.9分 東経138度43.2分 深さ24 Km M:4.8

大気イオン測定データ:測定レンジR2(0-50,000個/cc)



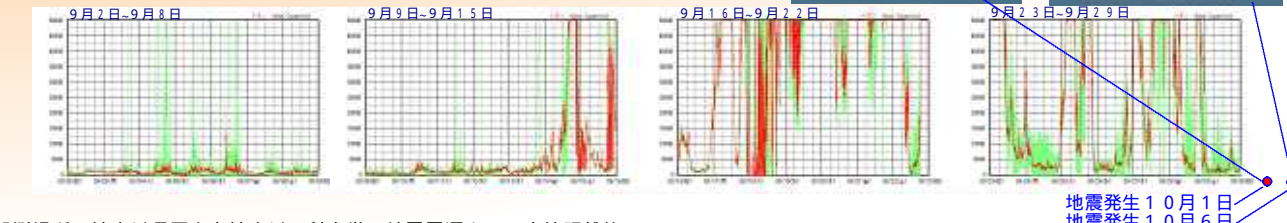
観測場所:神奈川県厚木市神奈川工科大学[地震震源までの直線距離約220Km]

神奈川県西部地震と大気イオン観測データ

大気イオンの異常値が9月14日から観測される(地震が起きる17日前から)

神奈川県西部地震 2007年10月01日02時21分14.4秒
北緯35度13.5分 東経139度7.1分 深さ14 Km M:4.9
神奈川県西部地震 2007年10月06日03時46分6.7秒
北緯35度24.1分 東経139度16.4分 深さ32 Km M:4.2

大気イオン測定データ:測定レンジR2(0-50,000個/cc)



観測場所:神奈川県厚木市神奈川工科大学[地震震源までの直線距離約36Km]

上記地震データは気象庁発表のデータを使用させて頂きました

上記大気イオンデータはCOM-3700を使用して観測

上記大気イオン測定データ表示:緑色は最大値と最小値を表示するピーク値表示、赤色は平均値表示

上記赤丸()は地震の発生

(作成:古屋)

COM-3700大気イオン観測システム

COM-3700大気イオン測定器、ラドンカウンター、風向風速計を組み合わせ大気中のイオンとラドンガスの放射線量を常時リアルタイムに観測するシステム。

開発製造 コムシステム株式会社 TEL:042-543-9062 FAX:042-543-9570

